

推進テーマ

「身近な環境に繰り返し関わることで、
想いを深め、伝え合おう」

～主体的・対話的で深い学びの実現に向けて～

鳥が丘地区
しらかば幼稚園
鳥が丘小学校

推進テーマ設定の理由

- 遊びを通した総合的な学びから、教科を通した学びへ、子どもの思いや願いを大切にした教育活動を推進していきたい。
- 3年間の事業の2年目だからと無理せず、交流活動をより自然な形にする。子どもたちが「幼稚園も小学校もどっちも楽しい」と思える交流をさらに充実させたい。
- 公園での自然と触れ合い体験を通した生活科の学習や季節に応じた秋の実で遊んだりおもちゃを作ったりして遊びの交流を発展させたい。また、遊びから様々な「楽しかった。」「私にもできた！」の経験から自己肯定感を育んでいきたい。
- 卒園と入学を見据えた交流として、今年度も年長と5年生との交流も考える。

<推進内容>

小学校での「スタートカリキュラム」で、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」をもとに、幼児期に身に付けた力を見とり、教科等の学習につないでいくこと。他者とのかかわりを深めること。

「共主体」



「主体的な学び」「主体性」を育んでいく



「〇〇したい!」「次は〇〇だから…」といった思いを引き出す



子どもたちが見通しをもって学習に臨んだり、日々の学校生活を送ったりできるようにする

< 取組前の姿 >

- 想いや願いを言語化することが難しかったり、どのように行動に移せばよいかの見通しをもてなかったりし大人がサポートをする機会が多かった。
- 間違いや失敗を気にしすぎて、緊張してしまう姿が見られた。周囲の動きを気にして「楽しむ」よりは「ちゃんとやる」という思いが感じられた。
- 昨年度から学校全体のたてわり活動を推進しているが、1年生は、ペア学年の6年生に頼りすぎて、本来もっている力、園で育んできた力を発揮できずにいる場面が見受けられた。
- **6年生**は主体的に学校のリーダーとして動いているが、同時に、**5年生**も高学年としての自覚をもてるようにしたい。

今年度の重点課題 ～スモールステップからの自己肯定感の育成～

★しらかば幼稚園と鳥が丘小学校がふれあいの中から壁をなくしていくこと

【期待する推進成果】

- 幼児期に遊びの中で、周囲のものや人といった環境に主体的にかかわり、より楽しい関わり方や新しい関わり方の発見や創造について、思考力の基礎を育み、感性や表現力を高めた力を基盤として、小学校では主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を通して、生きる力を育んでいくことができると期待する。
- 園児（年長）は学校を知り、児童や教師と関わることで、安心してわくわく感をもって入学してくる。そして児童は園児と触れ合うことで自らの成長を実感することを期待する。

<取組 1>

活動につなげる種まき→幼稚園でやったことを一緒にやろう。

～見通しをもって、安心して、主体的に学ぶ力をつける～
年長さんと一緒に自分たちも幼稚園の運動会で行った演技を楽しもう。



< 取組 2 > ～5年生との交流～

【年長園児（新1年生）と5年生（新6年生）の将来のペア学年が交流する。知り合いになる】

- ・5年生が運動会で踊った「鳥小ソーラン節」をカッコいいはっぴを着て披露する。
- ・カッコよくて、幼稚園のみんなから思いがけず「アンコール」声が。5年生もへとへとになりながらも笑顔でこたえ、幼稚園の子たちも一緒に踊りだす子がいて大変盛り上がりしました。

11月は、しらかば幼稚園年長さんと交流をしました。披露した後、「いつ小学校に来ても安心してね。」という願いを込めて、一緒に学校探検をしました。最後にグループごとに「だるまさんがころんだ」など一緒にできる遊びをしました。



<取組 3> 一緒に楽しもう！ 手作りおもちゃでゲーム屋さん

(1)本時目標

つくったおもちゃを試行錯誤しながら、年長さんが楽しみながら一緒に遊べる工夫することができる。

(2)本時展開

いっしょにたのしむためにどんなくふうができるかな



落ち着いて
大きな声で



始めにルール
です。
次にやっても
らいます



順番通りに
教えるね



まずは、
好きな選ん
でください

生活科「おもちゃランド」

- 1次 材料のよさを生かしておもちゃを作ろう
- 2次 クラスのみんなでおもちゃで遊んで、もっと楽しめる工夫をしよう
- 3次 完成したおもちゃをもっとたくさんの人に楽しんでもらおう

- 4次 幼稚園のみんなを招待して、おもちゃランドを楽しんでもらおう！

〈取組4〉 校内重点研究生活科

「見て！きいて！ぼく、わたしのせいちょう！」 ～もうすぐ**2年生**～

○手立て ・年長児に発表する場を設定

○年長児を招いて、自分たちの成長を発表するという場を設定することで、学習の目的意識を明確にもてるようにし、意欲を高めたいと考えた。その関わりの中で、自分にもできることや役割が増えたことを確認し、自分や友達が成長してきたことに気付いてもらいたい。

○自分ができるようになったことは、一人だけでできるようになったのではなくそこに多くの人の支援や励ましがあったことに気が付けるようにする。
年長児に見てもらう際は、どうしてできるようになったのかを一言話した後に発表できるようにした。

○新1年生としての期待を年長児にもってもらえるようにするとともに、自分の成長に関わった人への感謝の気持ちをもって活動できるようにしたい。



〈取組 5〉

「がっこうってこんなにたのしいよ！はっぴょうかい」

- ・ 園児と1年生が交流 音読発表・ゲーム大会・縄跳び発表
- ・ 5年生と園児が楽しい学校探検、ゲーム屋さんでも交流 ソーラン第2回公演



< 取組後の子どもの姿 >

○今回は、公園探検で幼稚園の子たちと会うという自然な交流の機会を設けてみた。交流の機会を繰り返し体験することで、想いを深め、自分の考えを伝え合ったり共に伝え合おうとしたりすることで、さらに自分の思いを深めていく姿が見られた。また相手を意識し、使う言葉を工夫し、豊かに関わろうとする子どもの姿が見られるようになった。



○年長児との交流で、相手のことを考えて伝えたいことを選んだり、優しく教えたりすることができるようになってきている。

<成果>



○1年生は、自分の思いを言葉にしたり、行動に移したりすることのよさを感じることができた。

2年生になる自覚と年長児を喜ばせたいと相手意識をもつことができた。

○園児は、小学校入学への不安を解消し、わくわく感と、期待感をもって、入学を迎えるようになる。上級生と知り合い、学校、校舎への安心感を得る。

◎教員同士が交流し、思いや願いを共有し、交流活動の計画を立てることができた。（推進委員会・打ち合わせ）

<今年度の活動からの展望>

- 2年目は幼稚園の年長児と幼稚園教諭が年に4回交流、推進会議や給食の会食、運動会参観などの来校があった。3年目は、園児が幼稚園で行う活動を小学校でもやってみたい。
- 今年度は子どもたちの活動に有効な必要な物を購入できた。来年度も予算のより効果的な運用と、交流計画の確認や打ち合わせの時間の確保をしていきたい。
- 3年目は幼稚園の先生からの要望や交流計画の希望も生かしていきたい。
発達段階等を考慮しながら、4月に小学校で幼稚園での活動の延長を意識した活動を入れたい。今年度、5月ごろに登校渋りの児童が散見されたが上記活動を学年でやってみたが、改善された。グラデーションのような幼稚園から小学校への移行は子どもたちにも安心感を与えるようで、来年度は、入学当初から始めていきたい。

